

2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 旭有機材株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 CEO 中野 賀津也
(コード：4216 東証プライム)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション室 室長 松居 秀
TEL. 03-5826-8836

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

弊社は 2021 年度にスタートした中期経営計画（GNT2025）を推進しており、「ものづくりのプロセスをお役立ちで支えます™」という使命のもと、事業を成長・拡大し、企業価値の向上を目指しています。その実現に向けて、「資本コストや株価を意識した経営の実現」に取り組んでおり、このたび活動内容をアップデートしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」をご覧ください。

以 上

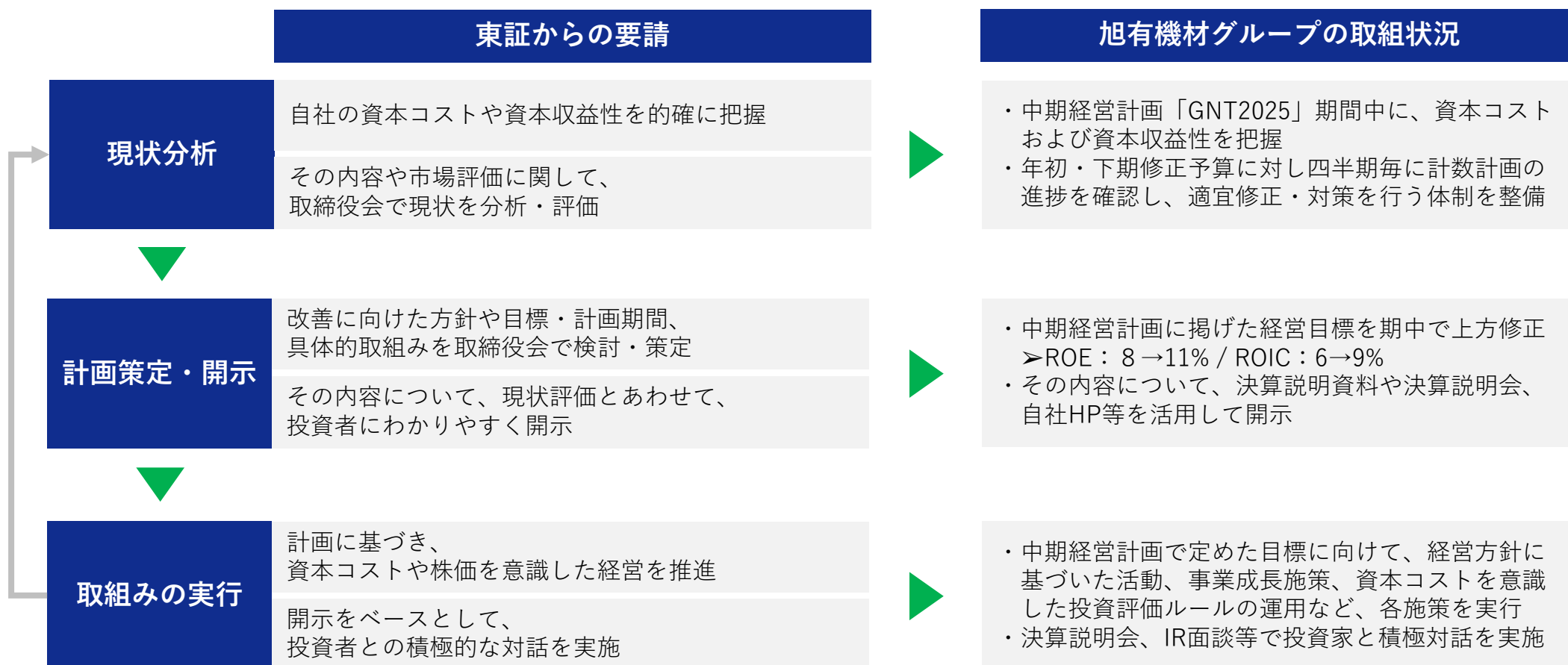


資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応

2025年 11月 13日

旭有機材株式会社

旭有機材グループは「ものづくりのプロセスを、お役立ちで支えます™」という使命のもと、事業成長と拡大を推進し、企業価値向上を目指しています。その実現に向け、資本コストや株価を意識した経営を進めています。



当社で既に進めている「資本コストや株価を意識した経営」の取組み状況に加え、アップデートした資本コストや資本収益性の進捗、市場評価、さらなる企業価値向上に向けた施策についてご報告いたします。

【1】 資本コストと資本収益性の進捗

- 株主資本コスト / ROE
- WACC / ROIC

【2】 市場評価に関する指標の推移

- PBR / PER / 株価など

【3】 企業価値向上に向けた中計施策の実践状況

- 主要施策一覧
- 資本コスト低減、資本効率向上に向けた取組み

1. 資本コストを上回る資本収益性の目標値設定と進捗

資本コストを把握し、資本収益性の目標値を設定。中期経営計画に基づいた施策を実行。

➤株主資本コストと現中計における2025年度目標 ROE

推定 株主資本コスト(CAPM)：7～8%

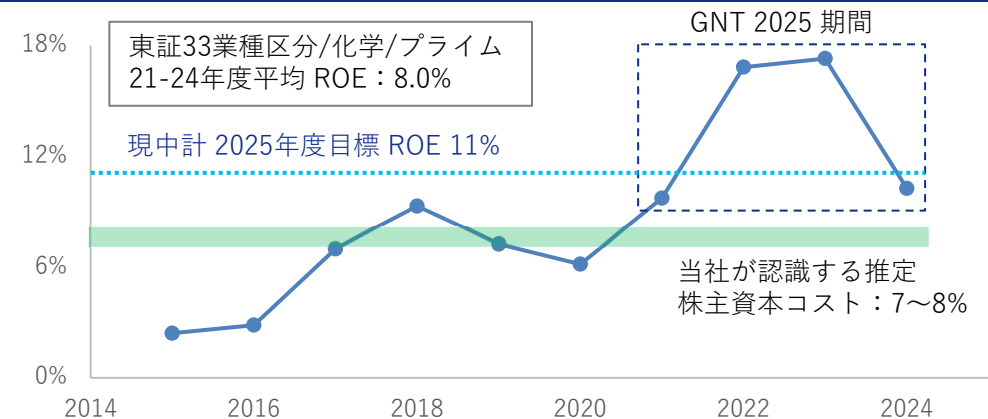
推定株主資本コスト(CAPM)：7～8%
＝リスクフリーレート(1.1)
＋ β (1.1) × 株式市場リスクプレミアム(6 前後)

- リスクフリーレート：10年国債利回りをベースに設定
- β ：過去5年間の旭有機材・TOPIXリターンから設定
- 株式市場リスクプレミアム：
株式市場期待収益率(過去実績)－リスクフリーレート

2025年度目標 ROE：11%

➤ROE の進捗

ROE：株主資本コストを上回る



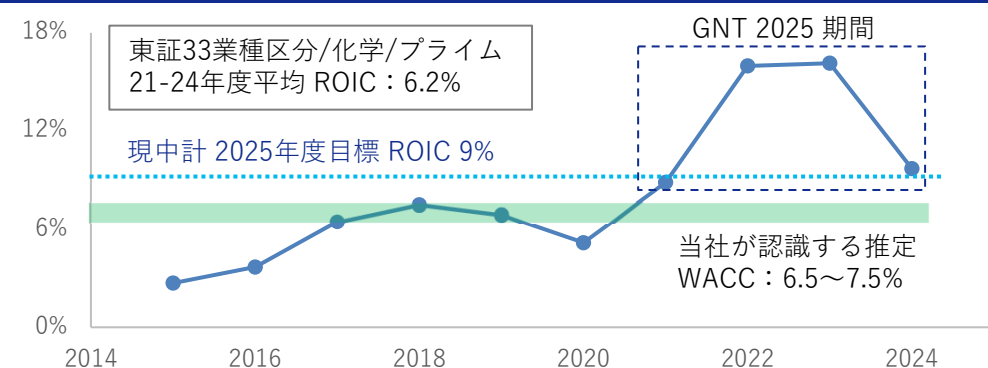
➤WACC(加重平均資本コスト)と現中計における2025年度目標 ROIC

推定 WACC：6.5～7.5%

2025年度目標 ROIC：9%

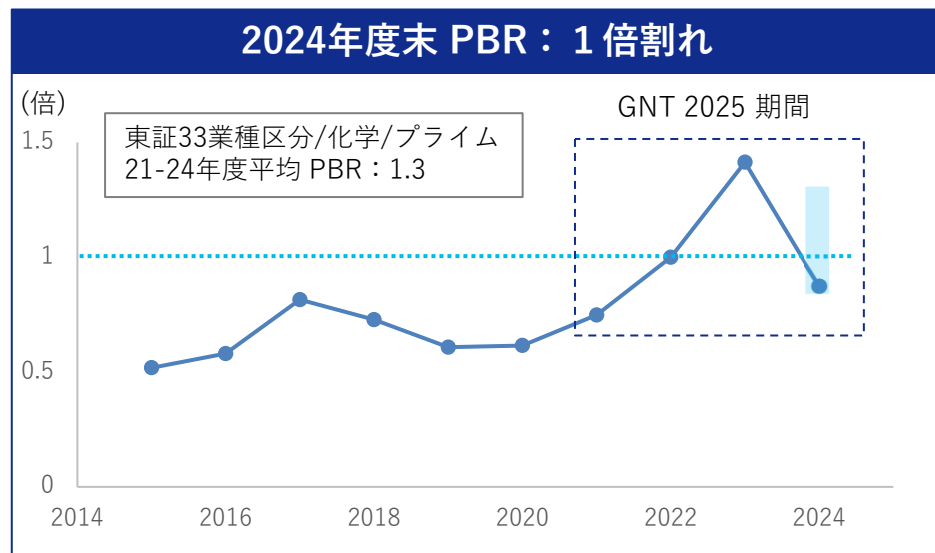
➤ROIC の進捗

ROIC：WACC を上回る

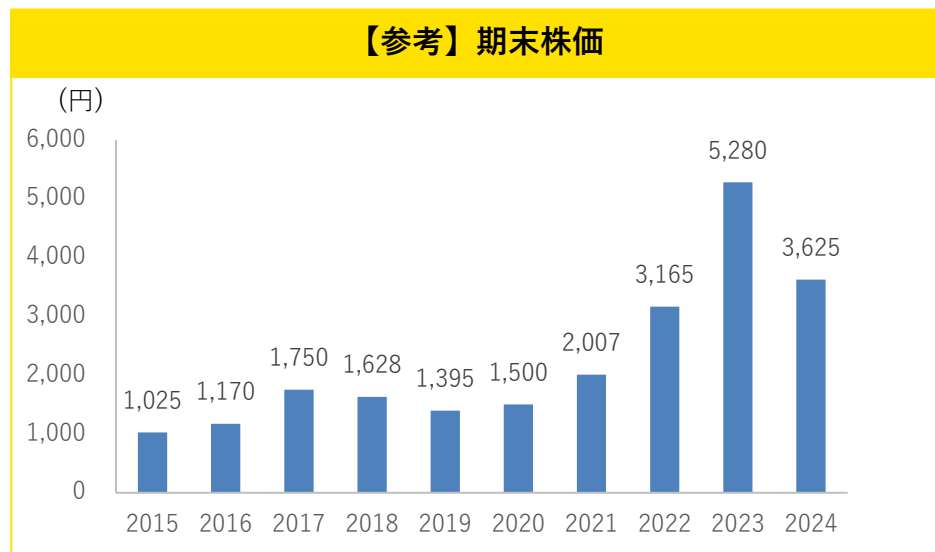
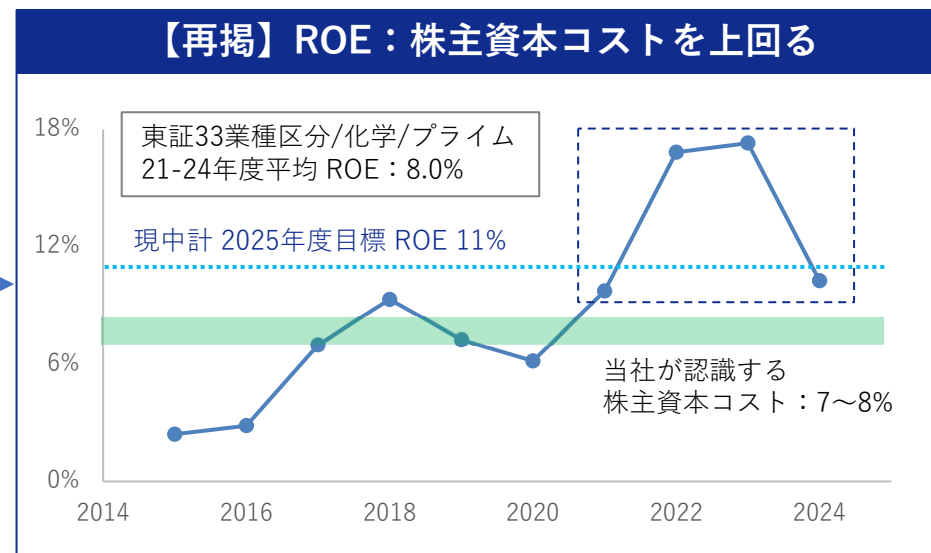


2. 市場評価に関する指標の推移

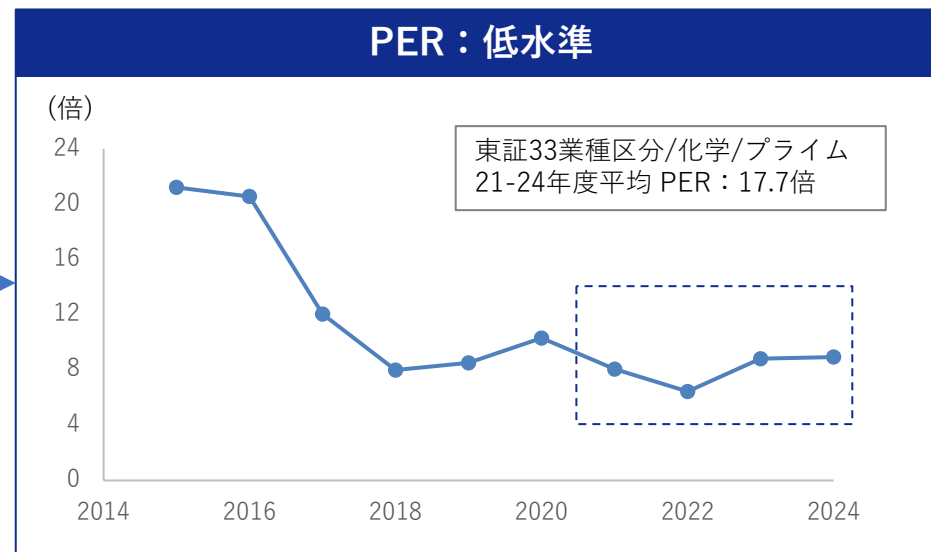
PBRは2024年度末時点で1倍を下回る水準



※2024年度におけるPBRの年間変動幅(最大/最小)を帯で表示

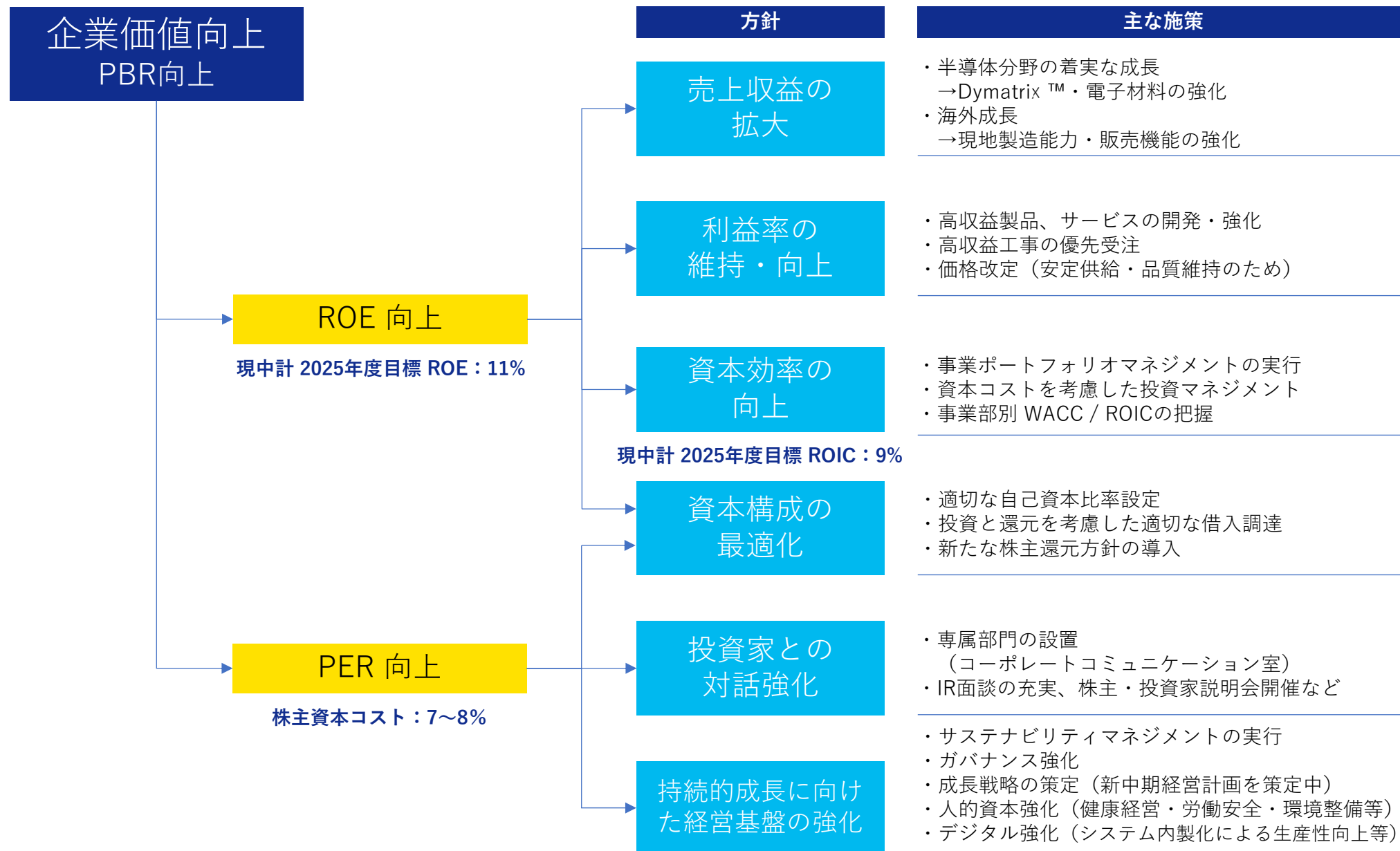


※調整後終値



3 - 1. 企業価値向上に向けた現中計の主要施策一覧

資本効率の更なる向上、資本コストの引き下げに向けて、各種施策を実行。



3-2. 資本コスト低減・資本効率向上に向けた重点取組み

継続的な取組みを通じて企業価値向上を目指す

➤ 資本コスト低減に向けた取組み事例

新たな株主還元方針の導入（2026年3月期～2031年3月期）

- ・ 1株当たりの年間配当金は前年以上を維持する**累進配当**とし、継続的な収益拡大の達成による増配を目指す。
- ・ あわせて**総還元性向**は財務の健全性(D/Eレシオ0.5以下)を考慮しながら、6年間累計として**50-70%**を目安とする。

投資家との対話強化とフィードバック

- ・ 当社は、持続的な成長と長期的な企業価値の向上のため、株主、投資家との建設的な対話を行うことが重要であると認識。コミュニケーションを強化するため、2024年に**専属部署を新たに設置**。
- ・ IR面談の充実に加え、機関投資家向け・個人投資家向け説明会を定期的を開催し、工場見学会の実施、開示資料の拡充など、信頼性と透明性の高い情報開示を推進。また、株主からの重要な意見や懸念は、随時経営陣に報告し、必要に応じて取締役会で共有する体制を整備。

➤ 資本効率向上に向けた取組み事例

事業ポートフォリオマネジメントの実行

- ・ 成長分野である**半導体・海外への投資を拡大**
 - 半導体：Dymatrix™・電子材料
 - 海外：アメリカ・中国・インド・メキシコ
- ・ 一方で、拡大が見込めない**事業の撤退**を実施
 - 成形材料事業（2023年撤退）
 - 旭環美水处理有限公司（2025年解散）

資本コストを考慮した投資マネジメントの徹底

- ・ 成長投資の判断においては、投資案件ごとに対象となる事業部のWACCに $+\alpha$ を加算したハードルレートを設定。**資本コストを上回る**、規律ある投資ルールのもとで運用。

3-3. 資本効率向上を牽引する半導体関連事業の展開

半導体関連事業のグローバル展開を加速中。さらなる成長戦略は、次期中期経営計画にて提示。

※本資料は現中計の活動内容であり、次期中計の活動方針は中計骨子に記載。

対象市場



先端・レガシー
半導体



FPD
(液晶・有機EL)

管材システム事業

- Dymatrix™(ダイマトリックス)：先端半導体製造装置向け製品
 - ・特長：低発塵・高精度流量制御
 - ・顧客：日本・韓国・中国・台湾等

➢ 低パーティクルバルブ



➢ FALCONICS™(高精度流量制御)



- 半導体関連バルブ
 - ・特長：低溶出・PFASフリー
 - ・顧客：日本・韓国・中国・台湾等



- 半導体関連パイプ・継手
 - ・特長：低溶出
 - ・顧客：米国



- 超純パイプ・継手(半導体・FPD)
 - ・特長：低溶出
 - ・顧客：日本・韓国・中国・台湾等



- エンジニアリング(請負工事)
 - ・特長：樹脂配管設計からアフターフォローまで一貫サポート
 - ・顧客：日本



樹脂事業

- 電子材料：先端・レガシー半導体向け樹脂
 - ・特長：低メタル・高品質樹脂の安定供給
 - フォトレジスト及び周辺材料の多様な製品群
 - ・顧客：日本

日本(愛知)：電材第二工場
(2024年竣工)



- 電子材料：レガシー半導体・FPD向け樹脂
 - ・特長：顧客ニーズに適合した高品質樹脂の安定供給
 - フォトレジスト及び周辺材料の多様な製品群
 - ・顧客：中国

中国：電材第一工場
(2024年生産能力1.5倍増強)

中国：電材第二工場
(2027年竣工予定)





**ASAHI
YUKIZAI**

Great Niche Explorer™

私たちは、ニッチ市場を極める探究者となり

「はじめて」に挑み「違い」をつくり

信頼の品質と真摯な対応による安心の提供と

ものづくりのプロセスをお役立ちで支えることで

社会に貢献し続けます